

好本 敦郎 作

—日本遺産備前焼—

須恵器 甗ハソウ

銘 「平安」

(敦郎 六十の内)

「ハソウ・ミニチア」

「鎮魂の歌巡礼の旅 2017」USA、カナダ訪問記念としてハソウ・ミニチア 60 個の制作を備前須恵焼窯元 好本敦郎氏に依頼しました。10 個をアメリカ バッファロー、カナダ ナイヤガラ・フォールズ訪問記念品として持参。50 個を希望者に販売し、売上金の一部を唐丹希望基金へ寄付させていただきます。

問い合わせ：ハソウプロジェクト事務局 高館千枝子

Tel : 019-697-3851/mail : tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

(Yoshimoto Atsuo : 1463-2 Inbe Bizen Okayama JAPAN 〒705-0001)

TEL : +81 869 64 3709 / E-Mail : y_atsuo@hotmail.com

へいあん
須恵器 甗ハソウ 「平安」 に寄せて

甗ハソウは、5 世紀の頃、新羅の陶工から伝えられた須恵器の技法で作陶された焼き物です。

古墳から発掘されたハソウは、博物館などに展示されています。上部がラッパ状で、底辺部が丸く、丸い部分に穴があります。考古学では、酒器とされていますが、ハソウの穴に息を吹き込むと不思議な音が出ることから「笛壺」と言われることもあります。大きさによって、音が違い、合奏すると、音が共鳴して余韻が残り、聞く人の気持ちに、安らぎを感じさせてくれます。古代の人達も、火を囲み、お酒を楽しみ、吹いて良し、ポンポンと叩いて良しと、その音に、和みの気持ちをかきたてられたことでしょう。



備前焼作家、好本宗峯は、25 年ほど前、備前市佐山の山麓に、自ら窯を築き、須恵器の技法に取り組み、ハソウの再現に成功します。そして、かつては、ハソウを吹き、法要をしたといわれる、奈良不退寺の業平忌で、現代のハソウを吹き鳴らし、平城天皇の孫で、歌人の在原業平の霊を慰めます。

父、宗峯の「平安」の心と須恵器の技術を受け継いだ好本敦郎が、ハソウの作陶に取り組んでいます。

20 年前、「南都花の寺」とも呼ばれる奈良不退寺の業平忌法要に、ハソウの合奏に参加させていただいた一人として、備前焼作家、好本宗峯の「平安」の心が、ハソウとともに、次の世代に受け継がれることを願っています。

「笛壺・ハソウを楽しむ会」

坂口 宗憲

(〒703 - 8233 岡山県岡山市中区高屋 184-4)

(Kenichirou Sakaguchi : 184-4 takaya nakaku Okayama JAPAN 〒703 - 8233)

TEL : +81 086 273 8816 / E - Mail : sakaguchi@ninus.ocn.ne.jp